

ねじりはちまき

2月 如月 立春 雨水の月になりました。

2月3日、節分で豆まき。4日、立春です。7日、初午。11日、建国記念日です。14日、バレンタインデー。19日、雨水となっています。

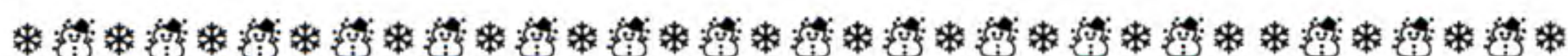
今年は戌年ですね。株式相場の格言で「戌年は戌が笑う」といいます。戌が笑うほど世の中が良くなるのかと思いますが、安部政権も6年目になり、政治のやりくりがうまいから長持ちもするし、世の中も良くなると思います。

近年は異常気象による豪雨や落雷、竜巻など珍しくなく、特に今年の方位吉凶盤に依る過去を振り返ってみると、水不足や干ばつに依る火災事故や水害に依る飢饉が多くみられ、内閣総辞職など歴史にあるそうです。

その混乱した世相が、災害対策に支障をきたす壁となってしまった事実があったようです。少し気を付けなければ、と思います。

寒さはあともう少しですね。雪見酒、梅見酒でも近々に…。

幸田 常一



こちら事務所です！



お世話になっております。

事務所近くの住宅新築工事現場は、昨年末完成しお引渡しさせていただきました。また、本宮市の別の現場で、住宅修繕工事をさせていただいておりましたが、こちらも完了いたしました。

「シンネンカイ」

今年も新年会の季節になって参りました。

私はお陰様で、元気にこの新年会に大勢の仲間に入れていただきましたので、その状況を報告いたします。

まず、先月の半ばに(平成29年12月)私が加入しておりますK市のH会(老人会)の役員の方が我が家を訪問されて、「間もなく正月を迎えることになりましたが、平成30年の新年祝賀会を町内の集会所で、来春1月中旬に開くことになりました。ついては、新年祝賀会に参加して欲しい。」とのこと。

私は、「是非参加させて下さい。」と当日の会費を役員の方に渡して、お願いをいたしました。

その後、出席者の名簿も配られる等、まさに至れり尽くせりの準備が進められました。

そして当日、新年祝賀会に入る前に、会員の中に写真技術のある方が居られ、その方のカメラで参加者全員の記念撮影が行われました。(後日、撮影した写真が配られましたが、皆様例外なしに幸せいっぱいの顔をしておられた。写真代は無料とのこと。撮影された方の自己負担か?)。その後、会長様の新年の挨拶、お祝い品の紹介などがあり、祝宴に入りました。

祝宴には、参加した女性部役員の皆様方の心を込めて作って下さった汁や、野菜料理が実に美味しい。加えて、昼食用に配られた寿司と冷えたビールの美味しいこと。H会の新年祝賀会はカラオケ愛好会(H会員で構成されているらしい。)会員の皆様のカラオケで熱唱されるなど、盛大なものとなり、時の経つのも忘れてしまう盛況の中、

今日もこうして飲めるのは会長さんのお蔭です、会長さんよ有難う、ホントにホントに有難う

今日もこうして飲めるのは幹事さんのお蔭です、幹事さんよ有難う、ホントにホントに有難う

今日もこうして飲めるのは皆様方のお蔭です、皆様方よ有難う、ホントにホントに有難う

全員で歌い、会の万歳を三唱して、中締となりました。

ただ残念だったのは、何時も元気に参加して居られたYさんとNさんが、体調を崩して欠席され、元気なお姿を拝見できなかったことです。

1日も早い全快をお祈りして居ります。

いつも感じているのですが、中締が終わり女性会員の皆様方が笑顔で新年祝賀会の後片付けをして居られる姿を見て、大変有難く申し訳ない思いで一杯になりました。

この歳(85歳)になり、元気で新年祝賀会に参加出来るのは、日頃から栄養のバランスの良い食事に心を砕いております家内に先ず感謝しなければならぬ、と痛感しました。

更に、今年も企画から実施まで何かと心配りをして頂いた H 会の会長様を始め、役員の皆様、そして女性の皆様に感謝しながら、ほろ酔い気分で家路につきました。

出来れば、来年も再来年の新年祝賀会にも、参加出来たら大変有難いと思うこの頃です。

K・S 記

おいしい♥2月

「 **みかん** 」

冬に食べる果物といれば、やっぱりみかんでしょう。(*^_^*)
薄皮も一緒に食べると、食物繊維もたっぷりでビタミンP も摂れ、血管を丈夫にしてくれます。
食べた後の皮は、広げて日に干しておきます。ネットなどに入れてお風呂に入れると体が温まりますし、何よりみかんの香りでリラックスできますね。

「 **節分** 」

立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを節分というのですが、特に立春が1年の初めと考えられることから、「節分」といえば春になっています。
立春が1年の初めと考え、前日の節分の日は1年の終わり、つまり大晦日になるわけで、そのため前年の邪気を全て祓ってしまおうということで豆まきが行われるのだそうです。

豆をまき、豆を拾い、豆を食べ、ご家族でどうか楽しい節分の夜をお過ごし下さい。

雪が降ったり止んだり、まだまだ寒い日が続きますが、立春を過ぎますと何となく気持ちの中に、明るさが増してくるようになります。
体調を整え、この季節をのりきって下さい。

幕末の知られざること

今回は江戸期から明治期に移る幕末のころ、幕府側の要人として活躍した人で、我々が歴史を学ぶ上で余り教えられていない人で、明治の日本に大きな影響を与えた人を紹介したいと思う。その人の名は「小栗上野介忠順（おぐりこうずけのすけただまさ）」である。明治の世になって大隈重信（政党の結成者・後に首相・早稲田大学の創設者）から、「明治政府の近代化政策は、小栗忠順の模倣に過ぎない」と言わしめた。また、日露戦争の連合艦隊司令官であった東郷平八郎からは「日本海戦に勝利できたのは、小栗が建設した製鉄所・造船所のお蔭であることが大きい」と言わしめた、ということが伝えられている。

では、小栗上野介忠順はどういう人だったのか。三河小栗氏の第12代当主で、幕末、将軍は家慶から慶喜までの4代に仕え、幕府での地位は勘定奉行、江戸町奉行、外国奉行を務めたほか、軍関係では歩兵奉行、軍艦奉行などを務めたのであった。小栗の業績で先ず挙げなければならないのは、日米修好通商条約の締結・調印のためにアメリカへ渡航した時（34歳）ことであった。歴史教科書では、勝海舟一行が「海臨丸」でアメリカへ渡航したことが教えられたが、実は幕府の使節一行はアメリカから遣わされた「ポーハタン号」で渡航したのであり、海臨丸はその護衛役としてサンフランシスコまで同行したというのである。ところで幕府の正使は新見正興であったが、目付役の小栗が実質正使の役を担うことになる。そのいきさつはこうである。幕府一行は小栗を除いて外国との折衝を経験したことがなかったのだ。そういうメンバー（特に正使）を派遣するののもどうかと思うが。幸いにして小栗は、詰警備役として外国人との交渉経験があったので、オロオロすることなく、落ち着いていたので、代表と間違えられたようだ。行く先々で代表としての取材を受けたとのこと。でも「目付役」なので、不審に思われたことも。そこを「目付役とはケルソンだ」と言い切って乗り切ったと伝えられている。そのことも代表扱いにされた一因ともいわれる。そのことよりも重要なのは、後に小栗が行った業績に関するエピソードがあるのだ。小栗の着眼点だ。一つは締結した通商条約で定められた通貨の交換比率の改定交渉の際の話。その比率が日本にとって不利なものであったので、改定しようと臨んだ。小栗はこの時、小判と金貨の分析実験のもとに日本側の主張の正しさを証明したのだ。交渉の結果は改定まで至らなかったが、アメリカの新聞は小栗の交渉態度を絶賛したという。もう一つは、ワシントンで海軍工廠を見学した時のこと。小栗は製鉄や金属加工の技術について日本との差をまざまざと見せつけられる。その時何を思ったのか、小栗は見学記念にネジを持ち帰ったというのだ。そこには「アメリカに負けてならぬものか」という並々ならぬ決意が秘められていたのではないかと。それが後の横須賀造船所建設につながったのだ。アメリカを発った一行は大西洋を經由して世界一周し、見聞を広めて帰国する。帰国後小栗は遣米使節として果たした功績が認められ、外国奉行に任ぜられるのである。この後小栗は8年にわたり幕府の要職にあって難しい局面に対処することになる。小栗の足跡を追ってみる。先ず、外国奉行の時（1861年）にロシア軍艦対馬占領事件が起きる。この事件への対処として、国際関係を考慮して取るべき国策を老中に具申したが、聞き入れられず、さっさと外国奉行を辞してしまう。そしてその次に勘定奉行に任ぜられる。これは幕府の財政立て直しをせよということだ。ひとつ例を挙げると、時の情勢を受けて幕府は海軍力の強化に力を入れていて、44隻もの艦船を外国から購入していたのだ。莫大な金額である。このような中で小栗は財政立て直しの指揮を取りながら、製鉄所建設に取り組むのである。この時小栗は幕府の将来より、日本国家の将来を考えていたということである。協力をうる相手としてアメリカを期待したが、当のアメリカは南北戦争の最中で余裕がない状況だったため、フランス（その時駐日公使はロッシュ）の協力を得ることにする。フランスの協力により製鉄所建設案がまとまり、1863年幕府に提出する。幕閣に反対する者が多かったが、将軍家茂が裁可を下して承認された。種々建設候補地が検討

され、横須賀に決定されるのである。そして工作機械類がフランスに発注され、1865年フランスからレオンス・ヴェルニーを技師長に招き、建設が開始される。建設費が多額のため、以前反対論は根強くあったが、それを押し切るように建設は迅速に進められた。が、幕府崩壊まで余り時間がなかった（大政奉還は1867年11月）。製鉄所を建設し、さらに造船所も建設しようと施設拡張に着手したが、小栗がやれたのはそこまでであった。だが、この製鉄所建設の意義には大きなものがあつた。そこで、横須賀製鉄所にまつわる話を二つ。製鉄所の初代所長には技師長のレオンス・ヴェルニーをそのまま迎えた。このことによりフランスの経営学や人事労務管理の基礎が日本にもたらされることになるのだ。また、日本初のフランス語学校が設立されることにもなった。次に明治に入つての横須賀製鉄所の運命だが、製鉄所は明治政府に引き継がれ、中途になった造船所の建設も進められて1871年に完成をみる。そして施設全体の名称は横須賀造船所に改称される。そして造船所は1872年に海軍省管轄となり、1903年に海軍工廠となるのである。1904年日露戦争は開始されたのであつた。先に挙げた東郷平八郎のことばを思い出して欲しい。

このほか小栗の業績で加えると、一つは陸軍の軍事力の増強に尽したこと。具体的には小銃、大砲、弾薬等の兵器・装備品の国産化を推進したのである。そのためあらゆる手立てを講ずるのであるが、同時に緊密な関係にあつたフランスより大量の兵器・装備品を購入し、かつフランスの軍事顧問団を受け入れてその指導のもとに軍事訓練に努め、陸軍の増強を図つた。この自負が大政奉還後に小栗が「官軍への徹底抗戦」を主張することに繋がつたといえる。そういう小栗の存在が薩長（官軍）に恐れられていたということだ。業績の二つ目は、大資本の商社（株式会社）を設立したこと。関税率改定の交渉をするにも、日本の商社が小規模資本の現状のままではいけないと、大阪の有力商人から100万両の出資を受け、1867年に株式会社「兵庫商社」を設立したのである。当時の株式会社としては群を抜いた存在であつた。小栗は経済面でも勘所をきちんと押さえ、先を見据えて迅速に打つべき手を打っていく、そういうところは抜かりがなかったといえる。また、余り知られていないと思うが、小栗が発案、主導して日本初のホテルを建設しているのである。そのホテルの名は「築地ホテル館」である。今の清水建設が建設を請け負つた。これも小栗の先見の明を現すものといえる。外国との交流が活発化するのを見据えていたということだ。このホテルは残念ながら数年後大火によって消失してしまつたということである。さて、この小栗がどういう最後を迎えるのか。40歳で官軍によって斬首されてしまうのである。場所は群馬県倉渕村の東善寺である。小栗はその寺の墓地に眠る。なぜそうってしまったのか。官軍への徹底抗戦を主張したものの、受け入れられず、お役御免となつた小栗は、その後一切の誘いにも応ぜず、東善寺に身を寄せ、静かに過ごす。ところが、ある日官軍の使いが訪れ、何の罪もないのに、斬首に処せられてしまう。こうして明治に入ると、明治政府（官軍）によって小栗は歴史から抹殺されてしまうのだ。司馬遼太郎はその著書「明治という国家」の中で、小栗を「明治国家誕生のための父」と評し、「新政府側が最も恐れた幕臣」と評したのである。この点、小生も認識不足だった。

<会社近況>

2月に入りました。毎日寒いですね。
1月下旬は大雪が降り、仕事に行かれる方は玄関先や駐車場の雪かきなどで、早朝からお疲れだったと思います。
まだまだ寒さは続きます。お体大切にお過ごし下さい。

本宮市の現場もお陰様で完了し、お引渡しさせていただきました。
現在は郡山市の現場をお世話になっております。
もう間もなく完成の予定です。
また先日大雪で、予定していた作業が出来なかった現場があったので、倉庫や物置の片付けなどをして過ごしました。
こうなると、春が来るのが待ち遠しいですね。
体調を整えて、まだまだ続く雪の季節を乗り切りたいと思います。

—お知らせ—

2/11(月)…「建国記念日」
お休みさせていただきます。

—お知らせ—

身辺雑感のタイトルで寄稿いただいてから、今月で69回になりました。
k・s様にはお忙しい中、長きに渡りお世話になってまいりましたが、残念なことに来月、最終回となってしまいました。
家庭菜園や山登り、日課の散歩など日常の楽しい話題をありがとうございました。

☆☆

平成30年2月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>
幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話0243-44-3816

<後記>

今年もじいちゃんに豆まきしてもらいました。じいちゃんの後について張り切っていたのは5才の曾孫だけ。
今年は2才の外曾孫も来ましたが、豆まきよりおもちゃに夢中でした。
来年はどんな豆まきになるのやら。

事務員k